

# 平成16年度スジアオノリ養殖概況

團 昭紀

平成16年度漁期は、相次ぐ台風により吉野川は増水し、天然採苗は不調となった。また、研究所が配布した人工採苗用の母藻も不良で、胞子の放出が非常に悪く、採苗は不調であった。数回の台風来襲にもかかわらず、11月に入り人工採苗をおこない養殖をおこなってきたが、12月に入り、台風23号により、再び低塩分化し、養殖は壊滅的打撃を受けた。また、台風による増水で、セットが押し流されてしまった箇所も多く見られた。

それでも、年末まで少しは養殖されたが、年末から年明けの寒波により、藻体が成熟し、脱落した。1月14日が県漁連の最終共販となったが、本年度合計は17トンで、

ほとんどが人工採苗によるものであった。なお、16年度漁期は春漁も行われたが、2トン程度の生産に止まった。

平成16年度漁期の共販数量約18トン（前年比23%）、1.8億円（前年比60%）であった。

## 1 スジアオノリ養殖技術講習会 開催せず

## 2 人工採苗用の母藻の生産と配布

川内、応神、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株（Y1124）であった。研究所内の冷蔵庫の故障により、保存環境が悪かったため、保存中に藻体の死亡が多かった。

## 3 平成16年度漁期の共販結果

図1に平成15年度、16年度の徳島県漁連共販数量を示した。図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。

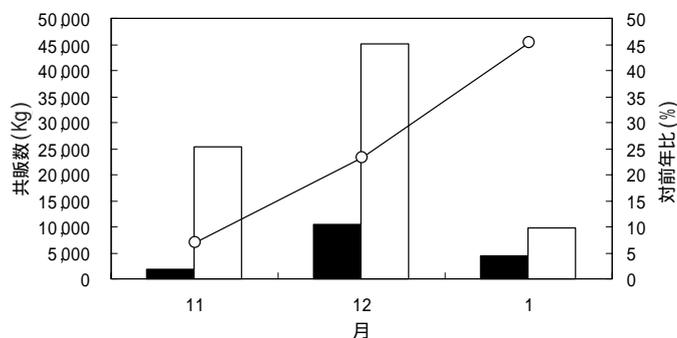


図1 月別共販数量の推移。 ，平成16年度； ，平成15年度； ，対前年比

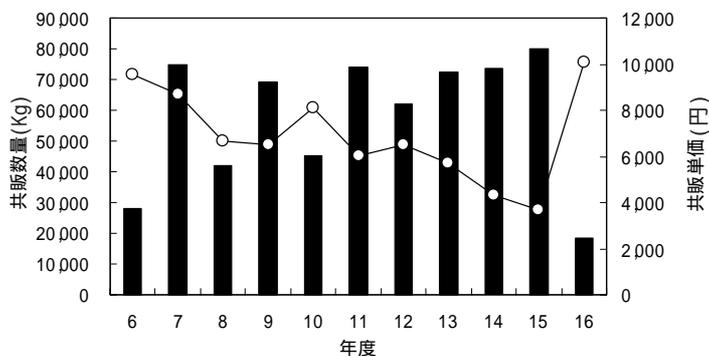


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，共販単価